

## ご挨拶

専務理事 三戸 規弘

「出来ない理由はいくらでもある、出来る方法を探せ」

これは、2020年に私が委員長の職を拝命した時に先輩から言われた言葉です。当時、年明けから順調にスタートした委員長生活は3月に突如変わりました。新型コロナウイルスが猛威を振るい、正体の分からないウイルスに恐怖し、当たり前であった活動が出来なくなり、新たな生活様式に転換せざるを得ない状況となりました。青年会議所活動にとって、人が集まらない事、人と接する機会を減らしましょうという風潮はまさに絶望的な事で、何も出来る事はないのではないかと、マイナスな事ばかり考えていた私を救ってくれたのがこの言葉でした。

青年会議所活動は止まらなると自分に言い聞かせながら過ごした委員長の年から2年が経ちますが、未だに新型コロナウイルスの脅威は収まっておりません。終わりの見えないこの環境が続く中で、市民の皆様や我々もマイナスな事を考えてしまう事が多くなっていると思います。

本年、糸谷理事長の掲げるスローガン「Positive Change」とは、ただ明るく前向きになろうという事ではありません。現状を受け入れ、このような時代だからこそ臨機応変に対応できる強みが我々青年にはあるという強い思いが込められております。

いつの時代も、どのような状況でも、変化を恐れず、失敗を恐れず運動を起こせるのは青年である私たちの強みであると考えております。

本年、創立70周年を迎える呉青年会議所の専務理事という大役を拝命致しました。私の役目は糸谷理事長の掲げる基本方針・スローガンのもと、事務局を統括し、呉青年会議所活動の運営を担っていく事です。70年続いて来た当会の活動がこの先も続いていく様、日々精進して参りますので、ご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

## ご挨拶

常務理事 平岡 達也

私たちは、一切の制約が取り除かれ、自由に考えることができれば、自分のもつ創造性を最も発揮することができると思いがちである。

しかし、実際には、数多のイノベーション研究によって、人は、何の制約がないよりも、一定の制約がある方がより創造力を発揮することが知られている。

このような研究において典型例とされるのが詩である。数多くの言葉を並べられるよりも、短い詩に心を撃たれたという経験を持つ方も多いだろう。

詩は、五・七・五の俳句で知られるように、表現方法に一定の構造的な条件が課されている点に特徴がある。

このような表現上の制約があるからこそ、詩の表現方法は多様なものとなり、強い効果を持つ。

「制約こそが創造力を産む」ことは、青年会議所活動においても当てはまる。

事業目的と手法との整合性や効果を検討するために何度も会議を重ね、事業計画書と予算書を作り上げる。事業の実施が決定された後は、計画通りに実行されているか確認し、効果を検証する。

事業を担当する委員長からすれば、迂遠なことこの上ないシステムに感じることもあるかもしれない。

しかし、このような一見迂遠とも思える意思決定システムは、形式的には時代とともに変化をしつつも、その根本的な精神は70年にわたり受け継がれてきた。

その理由は、まさにこのような制約があるからこそ、創造的な事業を企画し、実施することができたという暗黙知にあるのではないだろうか。

少子高齢化やグローバル化における地域社会の在り方といった課題は、いずれも一筋縄ではいかない。

このような課題を解決するにあたり、「制約こそが創造力を産む」と信じる力は最も重要であるはずだ。

事務局は、予算の管理をするとともに、各種会議の資料作成配布等を円滑に行うことで、各委員長が制約と向き合い、創造的な事業を構築することができるよう助力していく。

## ご挨拶

常務理事 内富 竜也

私が呉青年会議所に入会して、早くも5年が経ち、当団体は70周年を迎えることとなりました。入会当初の65周年では、まだ右も左も分からない状態で、日々新しい仲間と新しい物事に取り組んでいて、とても輝かしい団体だと感じておりました。

そして、70周年を迎える本年、この度常務理事の任を拝命させていただくこととなり、また違う角度から当団体のお役に立てること、呉市のことを考えられることを誇りに感じます。

この5年間、呉市だけでなく日本各地における社会情勢は大きな変化がありました。西日本豪雨災害から学ぶ、防災や組織間協力の重要性、また新型コロナウイルス感染症による、ニューノーマルの確立など、私たちは大きな変化を余儀なくされております。これは、「公益社団法人」を冠する当団体でも考えていかなければならない課題となっています。

本年公益を担当する常務理事として、公益のルールに則り、適正な事業が展開されるよう各委員会との調整・指導を行うとともに、このコロナ禍における、新たな公益社団法人としての在り方を模索していきたいと考えます。

未だに収束の目処が立たないこのコロナ禍の中ではありますが、「Positive Change」をスローガンに、各委員会のサポートを行い、メンバーの更なる成長と当団体の発展に尽力してまいりますので、1年間宜しくお願いいたします。